

6月定例会日程決まる

湖北広域・新施設建設始まる



米原市民報

日本共産党米原市議員
山脇正孝 Tel.52-1093
日本共産党米原市議員
藤田正雄 Tel.55-1527

<http://www.jcp-maibarashigidan.com/>

定例会日程決まる

- 5月29日告示・全員協議会
- 6月2日発言通告締め切り
- 6月5日日本会議（議案上程）
- 6月5日予算常任委員会
- 6月8・9日一般質問
- 6月12・13日健康福祉教育常任委員会・予算常任委員会分科会
- 6月16・19日総務産業建設常任委員会・予算常任委員会分科会
- 6月26日予算常任委員会・定期監査結果報告
- 6月28日・本会議最終日

補正予算の概要

今回の補正予算は、財源構成や人事異動に伴うものが多く、新規事業としては、近江長岡駅待合室活用支援補助金140万円が計上されています。

湖北広域・新施設整備計画

5月30日クリスタルプラザ会議室において、米原市長浜市の全議員に対して、令和5年度からの新施設建設の説明が行われました。これはすでに湖北広域事務センター議会において議決されているものです。

今回は、「新」も「れび苑」

（2021年4月稼働・長浜市木尾町）の隣に建設さ

6月定例会の日程が5月26日の議会運営委員会で決まりました。は報告1件、同意20件、議案11件の計32件となっています。議案のうち同意案件は農業委員の任命にかかるものです。その他は補正予算4件と条例改正5件とその他は2件です。湖北広域行政事務センターの新施設の建設が始まっており、その概要です。

れる施設です。湖北広域だよりには経過について次のように書かれています。

【湖北広域行政事務センターでは、新しい一般廃棄物処理施設（熱回収施設、リサイクル施設、汚泥再生処理センター）の整備に向けて、令和元年度に基本整備計画の策定及び事業方式の検討、令和3年に要求水準書の作成、令和4年度に事業者選定を行いました。

令和4年12月には、株式会社タクマ（兵庫県尼崎市）を代表企業とするタクマグループを優先交渉権者として決定し、その後、特別目的会社「湖北ハイトラスト株式会社」が設立され、令和5年3月に事業契約を締結しました。令和5年度より、長浜市木尾町の事業用地にて、施設の実設計等、本格的に施設整備を進めていきます。

24年間1200億円

契約金額は令和28年（2046年）3月31日までの契約期間で約536億円（設計・建設336億円、運営業務200億円）となっています。

今後の計画は

新しい施設の利用計画は次のとおりです。

	熱回収施設（焼却施設）	熱回収施設（バイオガス化施設）	リサイクル施設	汚泥再処理センター
利用開始	令和10年4月	令和10年4月	令和10年4月	令和7年10月
処理能力	124 t / 24 h	25 t / 日	21 t / 5 h	83kl / 日



雑感

ゴミ焼却場問題は、先の彦根市議会議員選挙において争点となりました。彦根市と大上郡の広域連合では荒神山のふもとに新たな焼却施設の建設が計画されています。その地域の人々が「荒神山を守る会」が結成され、「大型施設の見直し」と「ゴミ減量化」が必要とされています。その中で、燃やすより、発酵させてゴミを減量化し、またその発酵させた生成物を資源として活用すれば、大幅な経費削減を図れるとして提案し、彦根市内部でも検討されています。今回の湖北広域行政事務センターの移転計画は、地域が立候補する方式をとり、反対運動などがない湖北広域行政事務センターの推進がされてきました。そういう意味では順調に、計画が進んでいると管理者は挨拶で述べていました。しかしゴミの問題は、これからの行政課題として、反対運動と併用して最大限のエネルギーを回収し、そのエネルギーを電力として回収するとしていす。しかし、基本はゴミの減量化です。24年で536億円、年間約24億円の負担をいかに減らすか。そして地域のゴミ問題を含め環境を守る課題を今後も追及するの必要を感じた。